

せんだい 若手勉強会通信

○担当
東海林(3年目)
谷口(2年目)
志賀(1年目)
松浦(1年目)



国土交通省

Vol.2 海岸保全施設整備について学ぶ！

◆海岸保全施設整備中の現場に訪問！

[R5.8.8]

- ▶ 仙台湾南部海岸（納屋地区海岸・山元地区海岸）では砂浜侵食を防ぐため、ヘッドランド整備と養浜工を行っていました。200t吊りクローラクレーンで消波ブロックや巨石を投入しヘッドランドを整備後、クローラクレーンによる捨石・被覆ブロック・消波ブロックを整備し、その後に人工砂浜として河道掘削土（砂）を投入する現場を見学しました。
- ▶ この海岸事業では、試験施工として「緑の防潮堤」を整備しています。緑の防潮堤とは、コンクリートで被覆された堤防の法面に盛土を行い植栽する堤防です。樹木と盛土が一体となり、自然環境の保全や津波が襲来しても堤防の崩壊を遅らせる効果を持つ、粘り強い構造です。



200t吊りクローラクレーン(写真1)



養浜施工前と施工後のヘッドランド比較写真(写真2、3)

◎ヘッドランドとは…

人工岬とも呼ばれ、海岸の沖合に設けられる侵食防止のための堤防状の構造物である。ヘッドランドに入った波は浜辺に沿って遅い流れになり、流れる砂がヘッドランドに貯まることで砂浜の再生が期待される！

◆見学した若手職員の声

海岸保全施設整備により環境及び利用面も兼ね備えた砂浜の維持・再生や津波の影響を低減することが可能であると理解しました。



緑の防潮堤解説の様子(写真4)

緑の防潮堤は景観に配慮するだけでなく減災効果もあり、一石二鳥である！



200t吊りクローラクレーンによる海岸整備の見学(写真5)

緑の防潮堤 横断面



担当者の意見

堤防を背後地と一体となった景観形成を行っているように、道路事業においても地域の自然や人々の生活と調和できるよう良好な景観形成を目指していきたいです。

～ひとこと～

ヘッドランドと養浜工を組み合わせることで波の力を抑制することが可能です。
緑の防潮堤により、津波が万が一堤防をのり越えても、堤防が壊れるまでの時間を遅らせ、避難時間を確保するなどの減災効果を有し、景観や自然環境の改善にも期待できます！